

# 陸連時報 三

2018  
平成30年

12 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

## 目 次

2019年度 主要競技会日程(案).....	198
理事会報告.....	199
ドーハ2019アジア陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項.....	201
第30回IAU100km世界選手権大会報告(高田由基).....	202
第34回U20日本陸上競技選手権大会および第12回U18日本陸上競技選手権大会 報告 (強化委員会強化育成部U20コーディネーター 大橋祐二).....	203
「体育の日」スポーツ祭り2018報告.....	204
第24回JAAFコーチング・クリニック参加者募集.....	205
第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会報告.....	206
JAAF RunLink.....	207
『2019ジャパンレースディレクターズミーティング(JRDM)』開催.....	208
第8回オトナのタイムトライアル 開催要項.....	209
大会観戦ガイド.....	210
陸協NEWS.....	212
事務局からのお知らせ.....	214

## 公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

# 2019年度 主要競技会日程(案)

※主要競技会日程は、2019年3月の理事会で最終承認されます。

	主催・共催 競技会			主要 競技会			国際 競技会			
	期 日	競 技 会 名	場 所	期 日	競 技 会 名	場 所	期 日	競 技 会 名	場 所	
4月	14(日)	103 日本選手権50km競歩	石川	13(土)	GP 金葉記念選抜中・長距離	県民総合(熊本)	21(日)~24(水)	23 アジア陸上競技選手権	ドーハ(カタール)	
	21(日)	21 長野マラソン	長野	20(土)~21(日)	GP 出雲陸上	県立浜山公園(鳥根)				
5月		ゴールデングランプリ	ヤンマースタジアム長居(大阪)	3(金・祝)	GPP 静岡国際陸上	エコパ(静岡)	11(土)~12(日)	IAAF世界リレー	横浜国際総合(神奈川県)	
				4(土・祝)	GP ゴールデングッズinのべおか	延岡(宮崎)				
				5(日・祝)	GP 水戸招待陸上	Kスタ水戸(茨城)				
				6(月・祝)	GP 木南道孝記念	ヤンマースタジアム長居(大阪)				
6月	8(土)~9(日)	103 日本陸上競技選手権混成	長野市営(長野)	2(日)	GP 布勢スプリント	布勢総合(鳥取)	調整中	6 日中韓3カ国交流	金泉(韓国)	
				2(日)	GP 田島記念陸上	維新百年記念(山口)				
7月	27(木)~30(日)	103 日本陸上競技選手権	博多の森(福岡)	未定	○ 19 日本学生個人	Shonan BMW スタジアム平塚(神奈川県)	8(月)~13(土)	30 ユニバーシアード	ナポリ(イタリア)	
				30(日)	34 サロマ湖100kmウルトラマラソン	北海道				
8月	4(日)~8(木)	72 全国高校陸上	沖縄県総合(沖縄)	7(日)	GP 南部記念陸上	厚別(北海道)	23(金)~29(木)	27 日韓・中ジュニア交流競技会	長沙(中国)	
				調整中	調整中	調整中				
				54 全国定通制高校陸上	駒沢(東京)	44 蔵王坊平クロスカントリー				上山(山形)
				54 全国小学生陸上	調整中					
9月	15(日)	マラソングランドチャンピオンシップ	東京	12(木)~15(日)	○ 88 日本学生対校	長良川(岐阜)	27(金)~10/6(日)	17 世界陸上競技選手権	ドーハ(カタール)	
				14(土)~16(日)	40 全日本マスターズ	正田醤油スタジアム(群馬)				
				20(金)~22(日)	67 全日本実業団	ヤンマースタジアム長居(大阪)/ヤンマースタジアム長居(大阪)				
10月	4(金)~8(火)	74 国民体育大会	笠松運動公園(茨城)	14(月・祝)	○ 31 出雲全日本大学選抜駅伝	島根	調整中	17 アジアマラソン選手権	中国内(予定)	
				11(金)~13(日)	50 ジュニアオリンピック	等々力(神奈川県)				
				18(金)~20(日)	35 U20日本選手権	広域公園(広島)				
				18(金)~20(日)	13 U18日本選手権	広域公園(広島)				
11月	26(土)~27(日)	103 日本選手権リレー	北九州市本城(福岡)	26(土)~27(日)	GP 北九州陸上カーニバル	北九州市本城(福岡)	調整中			
				27(日)	○ 37 全日本大学女子駅伝	宮城				
				3(日)	○ 51 全日本大学駅伝	愛知・三重				
				10(日)	35 東日本女子駅伝	福島				
12月	1(日)	73 福岡国際マラソン	福岡	1(日)	9 大阪マラソン	大阪	調整中			
				8(日)	'19 長崎協協競歩	県立総合(長崎)				
				8(日) 予定	22 小学生クロスカントリーリレー	万博記念公園(大阪)				
				15(日)	26 全国中学駅伝	希望が丘(滋賀)				
2020年1月	22(日)	70 31 全国高校駅伝	京都	15(日)	38 山陽女子ロードレース	岡山	調整中			
				30(月)	○ '19 全日本大学女子選抜駅伝	静岡				
				12(日)	38 都道府県対抗女子駅伝	京都				
				19(日)	25 都道府県対抗男子駅伝	広島				
2月	1(土)~2(日)	'20 日本室内陸上大阪	大阪城ホール(大阪)	1(水・祝)	68 元旦競歩	東京	調整中	20 世界室内選手権	南京(中国)	
				2(日)	64 全日本実業団対抗駅伝	群馬				
				2(日)	'20 大阪ハーフマラソン	大阪				
				9(日)	69 別大マラソン	大分				
3月	9(日)	5 全国中学生クロスカントリー	希望が丘(滋賀)	9(日)	74 香川丸亀国際ハーフマラソン	香川	調整中	24 世界ハーフマラソン選手権	グデーニャ(ポーランド)	
				9(日)	48 実業団ハーフマラソン	山口				
				9(日)	31 全日本びわ湖クロスカントリー	希望が丘(滋賀)				
				9(日)	48 実業団ハーフマラソン	山口				
3月	1(日)	'20 東京マラソン	東京	16(日)	54 青梅マラソン	東京	調整中			
				16(日)	'20 熊本城マラソン	熊本				
				16(日)	'20 京都マラソン	京都				
				16(日)	'20 熊本市マラソン	熊本				
3月	調整中	調整中	調整中	8(日)	○ 23 日本学生ハーフマラソン	東京	調整中			
				15(日)	○ 14 日本学生20km競歩	石川				
				15(日)	○ 23 日本学生女子ハーフマラソン	島根				
				15(日)	44 全日本競歩能美	石川				

★=後援競技会、○=協力団体主要競技会

※アジア室内選手権 日程/場所(未定)

# 理事会報告

## 第51回理事会

日時：2018年9月27日（木）14時00分～17時00分

場所：小田急第一生命ビル 11階 貸会議室

### 【議事内容】

理事総数30名中出席者26名にて、理事会の成立を風間事務局長が報告。横川会長が挨拶を行い、引き続き、議事進行に入る。

### 〈協議事項〉

#### 1. 2019年度主要競技会日程

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、2019年度主要競技会日程が承認された。

(本号198頁および本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201809/2019calendar.pdf> 参照)

#### 2. U20日本陸上競技選手権大会／U18日本陸上競技選手権大会

開催地（2019年度、2020年度、2021年度）

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、2019年度、2020年度、2021年度3年間のU20日本陸上競技選手権大会およびU18日本陸上競技選手権大会開催地として、主管、広島陸上競技協会、競技場、広島県広島市の広島広域公園陸上競技場が承認された。

#### 3. ワールドマスターズゲームズ2021 関西の共催

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、2021年5月14日（金）から5月30日（日）まで関西各地で行われるワールドマスターズゲームズ2021 関西の共催が承認された。陸上競技は、トラック&フィールドが京都、10kmロードレースが滋賀、ハーフマラソンが和歌山、競歩が兵庫、駅伝が和歌山で行われる予定である。

#### 4. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会

トラック&フィールド種目日本代表選手選考方針

麻場強化委員長より、資料に基づき説明があり、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会トラック&フィールド種目日本代表選手選考方針が承認された。（資料1参照）

#### 5. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会

競歩日本代表選手選考要項の改定

麻場強化委員長より、資料に基づき説明があり、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会競歩日本代表選手選考要項の改定が承認された。

### 【改定箇所】

#### 3. 選考基準

編成方針に基づき、2019年9月のファイナルエントリー時点で、国際陸上競技連盟（以下、IAAF）が定める本大会の参加資格を満たした競技者の中から日本代表選手を選考する。

（要項の全文は、本連盟WEBサイト[https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201807/09\\_110954.pdf](https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201807/09_110954.pdf) 参照）

#### 6. ドーハ2019世界陸上競技選手権大会選手報奨金

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会選手報奨金が承認された。

順位	金額
1位	1,000万円
2位	500万円
3位	400万円
4位	150万円
5位	100万円
6位	100万円
7位	80万円
8位	80万円

○リレー種目の報奨金は、予選と決勝に出場した全選手を対象として、上記の半額を支給する。

○ドーピング違反等で順位剥奪となった場合、報奨金の全額返納とする。

#### 7. 公認競技会規程の改定

鈴木競技運営委員長より、資料に基づき説明があり、公認競技会規程の改定が承認された。

【改定箇所】\_\_\_\_\_部分

【2019年4月1日 次項に差し替え施行（予定）】

#### 10. 道路競走競技会において、本連盟、加盟団体、加入団体（た

し郡市区町村陸上競技協会に限る）、地域陸上競技協会が共催または主管し、且つ次の各号を順守することを条件に、本連盟は、地方公共団体その他本連盟が認める団体に、当該競技会について、公認競技会を主催する権利を委譲することができる。

①医師を含む医務員を複数名任命すること

②緊急医療体制（AEDの配置を含む）を整備すること

③競技者、競技役員に対して傷害事故、疾病事故に対応し得る保険に加入すること

#### 8. 後援競技会規程の改定

尾縣専務理事より、資料に基づき説明があり、後援競技会規程の改定が承認された。

【改定箇所】\_\_\_\_\_部分

第19条 本連盟が指定する後援競技会の主催者は、本連盟が指定する競技会役員、競技役員 [JTOs (Japan Technical Officials)、JRWJs (Japan Race Walking Judges)、国際道路コース計測員、NFR(National Federation Representative) 等] を委嘱しなければならない。

2 本連盟が指定する者、JTOs、JRWJs、国際道路コース計測員、NFRは、主催者の補助となり、規則に準じた競技会運営の実現と向上に協力をする。

3 後援競技会の主催者は、本連盟が指定する者、JTOs、JRWJs、国際道路コース計測員、NFR等の活動を保証する。

4 後援競技会の主催者は、本連盟が派遣する者、JTOs、JRWJs、国際道路コース計測員、NFRの経費（本連盟規程の交通費、日当、謝金及び宿泊費）を負担する。

※改定は即時適用とする。

#### 9. 競技会における広告および展示物に関する規程の改定

鈴木競技運営委員長より、資料に基づき説明があり、競技会における広告および展示物に関する規程の改定が承認された。

【改定箇所】\_\_\_\_\_部分

#### 4.1.6 その他の衣類

競技中に競技者によって使用されるその他の衣類（ヘッドギア、サングラス、リストバンドなどの製造会社名／ロゴは、衣類（製品）1つにつき1カ所表示することができる。面積は6cm以内とする。

（注意）メガネ、サングラスなどは、2カ所まで表示することができる。

【国内】クラブ名／ロゴについては、1カ所表示することができる。面積は6cm以内とする。ただし都道府県名／ロゴ、学校名／ロゴ（学校教育法第1条、第124条および第134条に規定する学校名／ロゴ）の大きさに制限は設けない。

※改定は即時適用とする。

#### 10. ナンバーカード広告に関する規程の改定

鈴木競技運営委員長より、資料に基づき説明があり、ナンバーカード広告に関する規程の改定が承認された。

【改定内容】

○競技会における広告物および展示物に関する規程の5.4.2を廃止

【改定により変更される内容】

○ナンバーカード広告料の最低金額の設定を撤廃

○ナンバーカード広告料の10%を本連盟に支払うことの撤廃

【施行日】

○2019年4月1日

#### 11. 競技者育成指針の策定

伊藤普及育成副委員長より、資料に基づき説明があり、競技者育成指針の策定が承認された。

### 〈報告事項〉

1. ジャカルタ2018アジア競技大会報告

2. バンコク2018ユースオリンピック競技大会アジア地域予選報告

3. 第5回日中韓3カ国交流陸上競技大会報告

4. 第17回U20世界陸上競技選手権大会（2018／タンペレ）報告

5. 第26回日・韓・中ジュニア交流競技会報告

6. 第30回IAU100km世界選手権大会(2018/スベティマーティン)報告
7. 第3回コンチネンタルカップ(2018/オストラバ)報告  
上記、麻場強化委員長より資料に基づき、報告された。
8. ドーハ2019アジア陸上競技選手権大会  
日本代表選手選考要項の改定  
麻場強化委員長より、資料に基づき、ドーハ2019アジア陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項の改定が報告された。  
[改定箇所] \_\_\_\_\_部分
2. 期日 2019年4月21日(日)～24日(水)
6. 選考基準  
各種目における選考の優先順位は、下記の通り。
- (1) 個人種目
- 1) 2018年12月31日時点の国際陸上競技連盟のHPで公表されるワールドランキングにおいて、各種目日本人最上位の競技者で、1カ国2名でカウントした場合、アジア8位に入る競技者。
- 2) 2018年12月31日時点のワールドランキング、2018年度の主要競

- 技会成績を基に、本大会でのメダルまたは入賞が期待できる競技者。
- 3) 強化委員会が推薦する競技者  
※ただし、IAAFワールドランキングの正式な公表が2019年1月以降となった場合は、発表時点のランキングをもとに選考する。  
(要項の全文は、本連盟WEBサイト  
[https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201807/09\\_110920.pdf](https://www.jaaf.or.jp/files/upload/201807/09_110920.pdf) 参照)
9. 投てき実施可能な人工芝敷設ガイドラインの制定  
高木施設用器具委員長より、資料に基づき、投てき実施可能な人工芝敷設ガイドラインの制定が報告された。  
(ガイドラインは、本連盟WEBサイト、<https://www.jaaf.or.jp/pdf/about/resist/shisetsu/file/11.pdf> 参照)
- なお、非公開において、倫理委員会および不服申立委員会の委員長および委員の選任、IAAF世界リレーの日本開催立候補を協議し、承認された。  
(2018年10月12日に行ったIAAF世界リレー 2019横浜大会開催決定に関する横浜市、日本陸上競技連盟による共同記者発表の模様は、本連盟WEBサイト<https://www.jaaf.or.jp/news/article/12178/> 参照)

資料1

ドーハ2019世界陸上競技選手権大会  
トラック&フィールド種目日本代表選手選考方針

1. 選手団編成の考え方

2020年東京オリンピックの目標は、より多くのメダルや入賞を獲得するとともに、大会により多くの競技者を送り込むことにある。その課題を達成するために、本大会へは参加資格を有する競技者を、選考要項に基づき最大限派遣する。

2. 選考競技会

第103回日本陸上競技選手権大会  
※その他の競技会については、今後検討。

3. 参加資格

- (1) IAAFワールドランキング ※2019年1月公表予定  
国際陸上競技連盟(以下、IAAF)が定めるランキング内の競技者が、本大会への出場する資格を得る。ランキングは2019年9月6日公表予定。
- (2) 参加標準記録  
今までの参加標準記録とは異なり、かなり高いレベルの記録が設定される。2018年11月1日発表予定。
- (3) リレー  
各リレーとも、下記の条件を満たした16カ国に出場権が与えられる。
- 1) 4×100mリレー及び男女4×400mリレー  
①2019年に開催されるワールドリレーズの男女4×100mリレー及び男女4×400mリレーの各上位10カ国。  
②上記1)以外で、参加標準記録有効期間内の記録上位6カ国。ただし、ホスト国(カタール)が①及び②に含まれない場合は、②による出場国は5ヶ国となる。
- 2) 混合4×400mリレー

①2019年に開催されるワールドリレーズの混合4×400mリレーの各上位12カ国。

②上記①以外で、参加標準記録有効期間内の記録上位4カ国。ただし、ホスト国(カタール)が①及び②に含まれない場合は、②による出場国は3ヶ国となる。

- (4) 資格記録(ランキング対象となる記録、参加標準記録)有効期限  
10000m、混合競技、リレー 2018年3月7日～2019年9月6日  
その他の種目 2018年9月7日～2019年9月6日

4. 選考基準及び派遣の条件

- (1) 個人種目  
IAAFワールドランキングのポイントも選考基準として加える。
- (2) リレー種目  
出場権を獲得した場合は、代表チームを本大会に派遣する。
- (3) 派遣設定記録  
設定については今後検討。

5. 補足

- 1) 各種目のエントリー数は、最大限派遣する方針ではあるが、故障等の理由により競技力を発揮できないと判断される場合は、国際陸上競技連盟が定める各種目の上限の枠(各種目3名)を用いない可能性もある。
- 2) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。
- 3) 本大会は、2019年9月27日～10月6日までドーハ(カタール)で開催される。

ドーハ2019世界陸上競技選手権大会  
トラック&フィールド種目ターゲットナンバー・参加標準記録

男子		種目	女子	
ターゲットナンバー	参加標準記録 ※2018/11/1発表予定		ターゲットナンバー	参加標準記録 ※2018/11/1発表予定
56		100m	56	
56		200m	56	
48		400m	48	
48		800m	48	
45		1500m	45	
42		5000m	42	
27		10000m	27	
40		110mH/100mH	40	
40		400mH	40	
45		3000mSC	45	
32		走高跳	32	
32		棒高跳	32	
32		走幅跳	32	
32		三段跳	32	
32		砲丸投	32	
32		円盤投	32	
32		ハンマー投	32	
32		やり投	32	
24		十種競技/七種競技	24	
2019ワールドリレーズ上位10ヶ国+IAAFランキング上位6ヶ国		4×100mリレー 4×400mリレー	2019ワールドリレーズ上位10ヶ国+IAAFランキング上位6ヶ国	
2019ワールドリレーズ上位12ヶ国+IAAFランキング上位4ヶ国		混合4×400mリレー		



# ドーハ2019 アジア陸上競技選手権大会日本代表選手選考要項

公益財団法人日本陸上競技連盟

## 1. 編成方針

東京2020オリンピック競技大会の成功に向けても、2019年9月に開催されるドーハ2019世界陸上競技選手権大会は重要な大会である。その大会により多くの代表選手を派遣するためには、ワールドランキングを高めることが必要であるため、本大会でのメダル及び8位入賞を目指す選手団を編成する。

## 2. 期日 2019年4月21日（日）～24日（水）

## 3. 場所 ドーハ（カタール）

## 4. 種目（案）

### (1) 男子

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、3000mSC、110mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、十種競技、4×100m リレー、4×400m リレー

### (2) 女子

100m、200m、400m、800m、1500m、5000m、10000m、3000mSC、100mH、400mH、走高跳、棒高跳、走幅跳、三段跳、砲丸投、円盤投、ハンマー投、やり投、七種競技、4×100m リレー、4×400m リレー

## 5. 選考基準

各種目における選考の優先順位は、下記の通り。

### (1) 個人種目

1) 2018年12月31日時点の国際陸上競技連盟のHPで公表されるワールドランキングにおいて、各種目日本人最上位の競技者で、1カ国2名でカウントした場合、アジア8位に入る競技者。

2) 2018年12月31日時点のワールドランキング、2018年度の主要競技会成績を基に、本大会でのメダルまたは入賞が期待できる競技者。

3) 強化委員会が推薦する競技者

※ただし、IAAFワールドランキングの正式な公表が2019年1月以降となった場合は、発表時点のランキングをもとに選考する。

IAAFワールドランキングテストサイト

<https://worldrankings-staging.aws.iaaf.org/home>

【注意】正式なランキングは2019年1月以降IAAFより発表予定です。

### (2) リレー種目

リレー種目の代表の選考は、個人種目に準じて選考するが、リレーの特性を考慮する。

## 6. 選考方法

選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し2019年2月上旬（予定）に選考委員会で決定する。

また、選考後の代表選手の入替えについては、強化委員会にて変更案を作成し、専務理事が承認する。

## 7. 補足

(1) 本大会の期日、種目、参加資格等がアジア陸上競技連盟から発表されたあと、選考要項の変更の可能性がある。

(2) 本大会は、ドーハ2019世界選手権の日本代表選考競技会として指定される。

(3) 種目毎の代表は、アジア陸上競技連盟が定めるエントリールール以内の人数とする。

(4) 代表選手は本連盟が定める義務を遵守するものとする。

(5) 下記の項目に該当する場合は、代表を取消すことがある。

1) アンチ・ドーピング規準に反した場合

2) 故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合

3) 本連盟が定める義務を遵守しない場合

(6) 選考から派遣までの期間を考慮し、代表選手は派遣まで定期的に各種目のオリンピック強化コーチへのトレーニングの進捗状況を報告する義務を有する。

(7) 選考後のトレーニング状況の報告により、医事委員会がメディカルチェックの必要があると判断した場合は、応じる義務を有する。

# 第30回 IAU100km世界選手権大会報告

高 田 由 基

## 1. 大会概要

2018年9月8日(日)、第30回IAU100km世界選手権大会がクアアチア(スベティマーティン)で開催された。本大会はIAAF協力団体のIAU(International Association of Ultrarunners)が主催。2016年までは毎年開催されていたが、以降隔年開催となり、昨年は開催されていない。日本からは、「第33回サロマ湖100kmウルトラマラソン」(6月24日)の男女上位4選手を代表選手として派遣した。日本は、前回2016年大会、男子個人メダルと各国上位3名の合計タイムで競われる国別対抗戦で男子銀メダル、女子金メダルを獲得。その活躍の他、前回覇者の山内英昭選手とサロマ湖で世界記録を更新した風見尚選手を有する日本は強豪国として他国からも注目されていた。チーム目標として、個人メダルと国別対抗戦の男女金メダル獲得を掲げ、大会に臨んだ。

## 2. 移動と現地の環境

羽田からドバイ経由でクアアチアに入国。ザグレブ空港から北東へ約110kmをバスで移動。日本から現地到着まで22時間余りを要した。選手村となったホテルは、スポーツ設備が充実しており快適に過ごすことができた。大会側からミネラルウォーターの支給がなかったため、現地のスーパーで購入した。食事も充実しており、各選手は持参した日本食と組合せながら食べていた。

## 3. 現地での練習・調整

現地到着後、jogでコースの下見を行った。以降は、各自に一任。30~60分のjog、および休養としていた。

朝練習と食事時間をコアタイムとし、全員が顔を合わせ、連絡事項の伝達、コンディションや戦術の確認等を行った。トレーナー帯同により、チームとしてコンディションの管理・把握を行うことができたことは大変良かった。

## 4. 競技結果

以下の表の通り。

## 5. コース

2.5km×1周+7.5km×13周(折返しコース)、高低差35mで起伏のあるクワなコースであった。

## 6. 気象コンディション

時刻	天候	気温	湿度
7:00(スタート)	曇り	18度	79%
13:00	晴れ	26度	53%
14:00	晴れ	28度	47%

## 7. レース展開と評価

《男子》レース序盤、日本人選手4人を含む15人程度が先頭集団を形成。徐々

### 【個人】

氏名	所属	順位	記録	備考
山内 英昭	浜松ホトニクス・静岡	1位	6時間28分05秒	2連覇
行場 竹彦	芦屋市陸協・兵庫	2位	6時間32分51秒	
早坂 光司	石巻RC・宮城	4位	6時間36分05秒	
風見 尚	愛三工業・愛知	6位	6時間42分30秒	
藤澤 舞	札幌エクセルAC・北海道	3位	7時間39分07秒	
太田美紀子	京都炭山修行走・京都	4位	7時間39分45秒	PB
兼松 藍子	TEAM R×L・埼玉	5位	7時間44分58秒	PB
楠瀬 祐子	東京陸協・東京	6位	7時間49分33秒	PB

### 【国別対抗戦】

国名	記録(各国上位3選手の合計タイム)	備考
日本	1位 19時間37分01秒	前回2位
南アフリカ	2位 20時間33分49秒	前回1位
ドイツ	3位 21時間02分12秒	
日本	1位 23時間03分50秒	2連覇
南アフリカ	2位 23時間56分44秒	
クアアチア	3位 24時間13分57秒	

にペースが上がリ、集団が崩れ、日本人選手もバラバラになった。午前中は曇りだったが、昼に近づくにつれ日差しが強くなり、気温も上昇。十分な水分とエネルギーの補給をさせた。

70kmでは、2位行場選手、3位山内選手、4位早坂選手と続いた。中盤でペースと順位を落としていた風見選手も徐々に回復した。

90km手前でトップに立った山内選手が大会2連覇を達成。2位に行場選手、4位に早坂選手が続いた。風見選手は、周回を重ねるごとに順位を上げ、最終周に3人を抜き6位入賞した。

《女子》序盤、藤澤選手が1桁順位で走り、太田、兼松、楠瀬の3選手は集団を形成し15位前後でレースを展開。中盤以降、気温の上昇と疲労から他国の選手がペースダウンする中、日本人選手は安定したペースを刻み、少しずつ順位を上げた。

藤澤選手は終盤にペースダウンしたが、粘りの走りで銅メダルを獲得。太田選手は、持ち味の安定した走りで中盤以降順位を上げ、4位入賞。5位に兼松選手、6位に楠瀬選手が続いた。楠瀬選手は70km過ぎに脱水症状および熱中症の症状が見られたため、経口補水液を飲ませ、頸部や手足をアイシングした。そこで順位を落としたが、徐々に回復し、最終周に3人を抜き6位入賞した。

《評価》山内選手の世界選手権2連覇、行場選手の銀メダル、藤澤選手の銅メダルの獲得、全員が6位以内の入賞、団体戦男女金メダルという予想を上回る好成績を残すことができた。

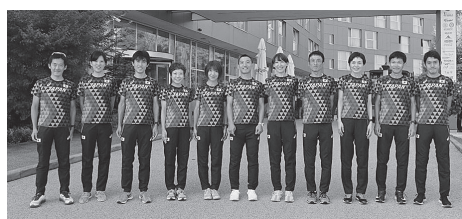
男子は、サロマ湖100kmウルトラマラソンにおいて世界記録が誕生するなど、日本代表選考レースが世界選手権を上回るハイレベルの戦いとなったが、そこを突破した4人がその実力を発揮し、結果的に他国を圧倒した。

女子は、世界選手権やウルトラマラソンの経験豊富な選手が多く、しっかりとペースを刻み安定の走りで全員入賞に至った。

男女ともに、選手の実力に加え、計画的なペース設定やチーム戦術、最後まで諦めず粘り強く走る精神力、それを支える知識と経験のあるスタッフのサポートが今回の結果につながったと考える。

## 8. 最後に

今大会に向け、多大なご理解ご協力いただいた選手のご家族、所属先の関係者、日本陸連の皆様、また応援してくださいました沢山の方々々に心から御礼申し上げます。本大会への日本代表選手派遣は2014年から始まり、今回で4回目でした。代表チームとしての体制に不十分なところもありますので、今大会の成果と課題を今後に生かしていくことができれば幸いです。今回の経験と結果が各選手の、チームJAPANの更なる活躍発展につながっていくことを祈っております。ありがとうございました。



# 第34回U20日本陸上競技選手権大会および 第12回U18日本陸上競技選手権大会 報告

強化委員会強化育成部 U20 コーディネーター 大橋祐二 (帝京平成大学)

2018年10月19日から21日まで、パロマ瑞穂スタジアムにおいて第34回U20日本陸上競技選手権大会および第12回U18日本陸上競技選手権大会が開催された。3日間とも晴天に恵まれ、U20男子110mHとU20女子棒高跳ではU20日本記録が樹立されるなど、シーズン終盤ながら好記録が続出する大会となった。

今大会からU18種目の年齢区分が一新され、高校一年生の早生まれ（今大会では2003年生まれ）の競技者が出場できないこととなった。これは、日本陸上競技連盟（以下、日本陸連）が定める競技者育成指針に沿った考え方であり、ジュニア選手の試合過多を防ぐ狙いがある。また、第6回全国高等学校陸上競技選抜大会の指定種目3位以上の選手に今大会の出場権が与えられるなど、種目間トランスファーを促進するため参加資格に幅を持たせた大会となった。

上述したように、今大会では2つのU20日本記録が樹立された。U20男子110mHでは、泉谷駿介選手（順天堂大）が13秒19（-0.6）という世界的にみても非常にハイレベルな記録を樹立した。この記録は、110mHの全てのカテゴリー（ユース、ジュニアおよびハイハードル）で最速となる記録である。泉谷選手は、今年度

U20世界陸上競技選手権大会でも銅メダルを獲得、更にハイハードル（106.7cm）で行われた日本学生陸上競技対校選手権においても13秒75（-1.1）で優勝しており、今大会で得られたスピード感をハイハードルに上手く移行することができれば、シニアの大会での活躍も大いに期待できるであろう。また、U20女子棒高跳では、田中伶奈選手（観音寺一高）が4m11をクリアし、U20日本記録を15年ぶりに1cm更新した。田中選手はその後の大会でも4m12にまで記録を伸ばしており、今後の活躍が期待される。

今大会をもって、瑞穂での開催は最後となった。日本陸連強化育成部は、選手の「強化」のみならず「育成」も念頭に置いて、各種目における規格の変更やラウンドの設定、更には標準記録の設定にまで熟慮を重ねてきた。そのため、大会運営側の愛知陸上競技協会には無理難題を押し付けることも多く、資格審査や大会運営で多大なご協力をいただいた。U20日本選手権とU18日本選手権という2つの大会を同時に、しかも3日間という過密スケジュールで開催するということは並大抵のことではなく、9年間滞りなく競技会が開催されたことに感謝の気持ちで一杯である。本誌面をもって感謝申し上げます。





# 「体育の日」スポーツ祭り2018報告

日本陸上競技連盟 普及育成委員会 簡優好・今岡徹郎

平成30年度「体育の日」中央記念行事スポーツ祭り2018がスポーツ庁他の主催により、味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）で開催された。今年も昨年同様に行事は、陸上競技以外にも多くのオリンピックやトップアスリートがゲストとして参加するビックイベントであり、陸上競技からは今年8月にジャカルタで開催されたアジア大会に出場した3選手の、岸本鷹幸選手（富士通）、橋岡優輝選手（日本大学）、新井涼平選手（スズキ浜松アスリートクラブ）に参加していただいた。



開催当日の10月8日（月・祝）は曇り空のもと雨が降る心配であったが、参加者の熱気とやる気で雨に降られることなく、公衆によって選ばれた小学5年生から6年生の約70名が参加した。前半は50mH、走幅跳、ヴォーテックス投げ、それぞれのトップアスリートによるデモンストレーションの実施。後半は短距離（ミニハードル、ラダー）、走幅跳、投擲（ヴォーテックス投げ）の3種類の陸上教室と、各種目の測定を行い実際にどのくらいの力があるのかを体感していただいた。

デモンストレーションでは、岸本選手に50mH、橋岡選手に走幅跳、新井選手にヴォーテックス投げを担当していただいた。特に新井選手のデモンストレーションでは、迫力のある投げに子供たちや見学している方からも大きな歓声が沸き、アンコールのかけ声もあがり普段なかなか見ることができない貴重な経験となった。

## ○デモンストレーション

### ・50mH

50mHは岸本選手が担当。バックストレートで囲むように子どもたちと観客が見守る中、ハードルを3台置き、1台1台華麗なハードリングを披露してくれた。ハードルを飛び越えるごとに歓声があがった。



### ・走幅跳

走幅跳は橋岡選手が担当。砂場ピットを子どもたちが囲む中、デモンストレーションを行った。会場にいる人全員で橋岡選手を応援するために手拍子を行い会場に一体感が生まれていた。その中で橋岡選手は7m40cm近くの大ジャンプを見せ、会場を沸かせた。



### ・ヴォーテックス投げ

ヴォーテックス投げは新井選手が担当。やり投げのピットから豪快な投げを2本見せていただき、子どもたちや観客から大きなよめきがあり会場を興奮させた。参加者と新井選手が投げた場所は約5mという近い距離でのパフォーマンスであった。その近い距離でトップアスリートの迫力のあるパフォーマンスを体感できたことは子どもたちにはいい経験になった。



## ○陸上教室

まず、初めにウォーミングアップで、日本陸連 普及育成部の宮崎久委員による、その場でできる体操とほぐしの運動を楽しく行った。その後、子どもたちは3チームに分かれて50m走、走幅跳、ヴォーテックス投げをそれぞれローテーションして約30分ずつ体験した。50m走では岸本選手からミニハードルとラダーを使用し、地面の接地を意識した基本動作を行った。実際に動きを見せたポイントを押さえての説明が非常にわかりやすかった。その後50m走を2本計測した。

走幅跳では橋岡選手による助走練習と踏切練習を中心に指導を行った。助走のスピードをあげることで踏み切り時に体を起こすことを指導した。子どもたちが一生懸命跳ぶ姿が印象的だった。また質問コーナーをして子どもたちとの距離を縮めていた。

ヴォーテックス投げでは、的当てと遠投を行い、新井選手は遠投を主に担当した。投げ方の基本やタイミング、全身を使った投げをわかりやすく指導した。また、一投ずつ声掛けを変えて指導にあたった。新井選手の声掛けによって記録が伸びていく子どもたちが大勢いた。

最後にオリンピックたちとの写真撮影やサイン会が行われ、子どもたちは充実した表情を見せながら、陸上教室は終了した。

## 〈総括〉

今回は一流アスリートとの交流や指導だけでなく、実際に参加した小学生に走・跳・投それぞれに“計測”というものを取り入れ、記録にチャレンジする場を設けた。本イベントは一般公募ということもあり、陸上競技未経験者も多く参加しているため、少しでも陸上競技が「楽しい」と感じていただき、陸上競技に興味を持っていただけたらと願っている。今後も様々な施策を検討し、陸上競技が盛り上がるように考えていきたい。



# 第24回JAAFコーチング・クリニック 参加者募集

例年、指導者の皆様から大変好評を得ております「JAAFコーチング・クリニック」を下記の要項で開催いたします。

第24回コーチング・クリニックでは午前中に、平成30年度全国高等学校総合体育大会（インターハイ）100mHで日本高校記録を更新し優勝した小林歩未選手を指導した船橋市立船橋高等学校 陸上競技部顧問の『後藤彰英氏』による実技を含む講義を行っていただきます。

午後には、日本女子体育大学教授であり「性と柔：女子柔道史から問う」の著者でもある『溝口紀子氏』による「スポーツ指導者として、どこまでが指導でどこからがハラスメントなのか」の講義を行っていただき、その後、2012年に行われた「ロンドンオリンピック」800mに出場し、現在は指導者として活躍している『横田真人氏』に「中距離のトレーニングについて～選手と指導者の立場から～」について講義を行っていただきます。

指導者として、重要視される内容ばかりの充実したプログラムとなっております。

## 詳細

日程：2019年1月19日（土）9：50～16：30（9：30受付 昼食1時間）

会場：味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）大研修室

参加者：JAAF公認ジュニアコーチ（日本スポーツ協会公認指導員）

JAAF公認コーチ（日本スポーツ協会公認コーチ）

中学・高校・大学・実業団の指導者

定員：120名

講習会内容：9：50～10：00 開講式

講習会内容：10：00～12：00 「ハードル選手の指導法について」

13：00～14：30 「スポーツ指導者として、どこまでが指導でどこからがハラスメントなのか」

14：45～16：15 「中距離のトレーニングについて～選手と指導者の立場から～」

16：15～16：30 閉講式

以上3つのテーマでの講習会を予定しております。

参加費用：JAAF公認指導者資格有資格者 5,000円

それ以外の方 7,000円

申込方法：申込受付は陸連HPに掲載いたします。

定員（先着120名）に達し次第締め切ります。

※お申込みはインターネットのみとなりますので予めご了承ください。

※「JAAFコーチング・クリニック」は公認スポーツ指導者の「義務研修」として位置付けております。指導者資格をお持ちの方は積極的な受講をお願いいたします。

※宿泊・食事は各自で手配をお願いいたします。

※ビデオでの撮影は諸事情によりできない場合があります。

問合せ：日本陸上競技連盟 「コーチング・クリニック係」

TEL：03-5321-6580（平日：10：00～18：00）

担当：千野・八幡・磯貝

FAX：03-5321-6591 coach@jaaf.or.jp



# 第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会報告

2018年10月12日(金)～14日(日)に日産スタジアム(横浜市)で第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会が行われました。

本年度のジュニアオリンピックでは、大会名の通りオリンピックといった国際大会を意識した大会であることから、国際基準に合わせるために以下のように年齢で区分分けを行いました。

A：2003年1月1日生～4月1日生(高校1年生)、  
2003年4月2日生～12月31日生(中学3年生)

B：2004年1月1日生～4月1日生(中学3年生)、  
2004年4月2日生～12月31日生(中学2年生)

C：2005年1月1日生～4月1日生(中学2年生)、  
2005年4月2日生～2006年4月1日生(早生まれを含む中学1年生)

変更の背景には、相対年齢効果の影響を考慮したことも一つの理由です。例えば、同学年でも4月生まれと3月生まれとでは約1年の実年齢差が生じます。これは精神的、肉体的にも差が生じることが考えられます。この影響下で競技を行うことは、早生まれ選手の活躍する場

が少なくなることや、勝利に拘るがゆえに、身体能力の差を軽視し成長段階以上のトレーニングの実施につながる危険性があります。これらは中学・高校で競技を退く一因といえます。

実際、日本代表レベルの選手において高校時代に活躍した選手は半分程度であり、中学時代の全国大会出場率は半分以下です。将来の日本陸上界を担うこの育成世代の選手がより先の将来を見据えて、活動に取り組んでいくことを期待致します。

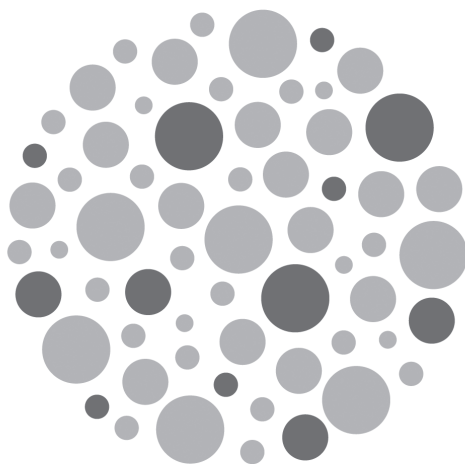
ジュニアオリンピックは中学生アスリートが秋シーズンに目指す憧れの全国大会となっています。出場者数は約2000人となりました。年齢区分が変わったことにより、早生まれ選手の入賞者数は非常に多くなり、今後の期待が高まります。今年のMVPは男子は110mジュニアハードルの鹿田真翔(3)(香川・飯山中)が中学最高記録の14秒03で優勝。女子は女子A砲丸投げの今西あかり(3)(奈良・天理南中)が4kgで13m02で優勝しました。また女子4×100mリレーでは千葉県チームが46秒34の日本中学記録を樹立し会場を大いに盛り上げてくれました。





ランニングに関わるすべての方<sup>\*</sup>へ  
日本陸上競技連盟の  
新たなプロジェクト始動

※ランナー・大会主催者・企業の皆様



# JAAF RunLink

## MISSION

for Events

### More Than a Race

大会を、大会以上の価値に。

for Runners

### More Than a Day

人々の暮らしを、ランニングのある日常に。

日本陸上競技連盟はより良い大会作り、より素敵なランニングライフスタイルを支えていきます。

JAAF RunLink ホームページで  
各界著名人のスペシャル対談公開中

RunLink



上記で検索、または  
右記QRコードよりアクセスして下さい



# 『2019ジャパンレースディレクターズミーティング(JRDM)』開催

**主催：**公益財団法人日本陸上競技連盟  
**後援：**スポーツ庁（予定）  
**日時：**2019年3月2日(土) 13:00～16:00（受付12:00～）  
**会場：**ビッグサイトTFTホール500  
〒135-0063 東京都江東区有明3丁目4  
**参加費：**無料  
**対象：**都道府県陸上競技協会、マラソン大会運営関係者  
※一般ランナーの方は参加できませんので、予めご了承ください。  
**定員：**350名  
**申込方法：**Web申込 <http://www.jaaf.or.jp/>  
**締切：**東京マラソン視察AD希望 2019年1月21日(月)  
東京マラソン視察AD不要 2019年2月8日(金)

## プログラム（予定）

12:00	受付開始
13:00～14:00	【第1部】JAAF RunLink 事業説明
14:00～14:15	質疑応答
14:15～14:30	休憩
14:30～15:30	【第2部】調整中
15:30～15:45	質疑応答
16:00	終了

### ※東京マラソン視察について

視察ADのお渡しについては、本会に参加いただくことが条件となります。  
セキュリティー徹底のためご本人以外にはお渡しできませんので予めご了承ください。

※視察の対象エリアは、スタートエリア、フィニッシュエリアが対象になり、当日の視察は各自で行っていただく形になります。

### 東京マラソン2019大会要項

<https://www.marathon.tokyo/about/outline/>

### 2019年3月3日（日）

9時05分	車いすマラソン・10kmスタート
9時10分	マラソン・10kmスタート
10時50分	10km競技終了
16時10分	マラソン競技終了

※記載の情報は2018年11月1日現在のものです。詳しくは、日本陸上競技連盟HPをご覧ください。

# 第8回オトナのタイムトライアル 開催要項

- 開催趣旨 ランニングの普及を目的に、「草の根レース」と「トラックも、走ろう」このふたつを合言葉に、日本代表選手や箱根駅伝メンバー等のエリートランナーがペースメイクをする市民ランナー向けトラック記録会を開催（※陸連非公認大会）
- タイトル 第8回オトナのタイムトライアル
- 開催日時 2019年1月6日(日) 10:00～18:00 ※雨天決行
- 開催場所 駒沢陸上競技場
- 主催 公益財団法人日本陸上競技連盟  
一般社団法人オトナのタイムトライアル
- 種目 ①1500m  
②5000m  
③10000m
- ペースメーカー 現役日本代表選手をはじめとするエリートランナー
- 参加資格 ①キッズ 小学4年生～6年生  
②高校生以上・一般  
③大学、実業団所属選手
- 参加料 3,000円（定員1,000名）
- 申込方法 大会公式HPより申込 <http://otona-tt.com/>
- その他
- ・応募が多かった場合、1組60名を上限として、組分けを行います。
  - ・組分けも含めた正式なタイムスケジュール・エントリーリストは、開催1週間前までにHP上に記載いたしますので必ずご覧の上お越しください。
  - ・詳細は大会公式HPとオトナのタイムトライアルFacebookページでお知らせいたします。
  - ・給水地点を一カ所設けます。
  - ・イベント当日は、ランナーへ向けたマナー啓発活動や、会場及び会場周辺のクリーンアップ運動を実施いたします。
  - ・本イベントは日本陸連公認競技会ではありません。記録の公認はされませんので予めご了承ください。
- お問い合わせ 公益財団法人日本陸上競技連盟  
OTT担当：<sup>あびる</sup>畔蒜洋平  
Mail：abiru@jaaf.or.jp
- ※記載の情報は2018年11月1日現在のものです。詳しくは、日本陸上競技連盟HPをご覧ください。



# 大会観戦ガイド

いよいよ駅伝&マラソンシーズン到来！  
来年のアジア競技大会に向けて奮闘する選手たちにぜひ  
ご注目下さい！

## 第72回福岡国際マラソン選手権大会 兼 ドーハ2019世界陸上競技選手権大会 日本代表選手選考競技会 兼 第102回日本陸上競技選手権大会男子マラソン マラソングランドチャンピオンシップシリーズ 2018-2019 ～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～

男子マラソンのトップランナーが福岡に集結！  
日本代表の座を巡って、白熱の戦いを展開します。日  
本屈指の実力者たちが世界の強豪に挑みます。

▼日時：12月2日（日）12時10分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：福岡・平和台陸上  
競技場

▼アクセス：

・福岡市地下鉄「大濠公園」、「赤坂」駅下車徒歩8分  
・西鉄バス「大手門・平和台陸上競技場入口」バス停下  
車徒歩5～8分

▼コース：福岡朝日国際マラソンコース（平和台陸上競  
技場・大濠公園～福岡市西南部周回～香椎折り返し）  
42.195km

▼参加標準記録：

【Aグループ】フルマラソン	2時間27分以内
30km ロードレース	1時間35分以内
ハーフマラソン	1時間05分以内

【Bグループ】フルマラソン	2時間35分以内
30km ロードレース	1時間45分以内
ハーフマラソン	1時間10分以内

▼テレビ放映予定：テレビ朝日系列

12月2日（日）12：00～

（テレビ朝日系列など全国29局ネット）

▼問合せ先：福岡国際マラソン事務局（朝日新聞社西部  
企画事業チーム内）TEL：092-411-1137

▼日本陸連WEB内大会ページ

<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1292/>

大会公式サイト

<http://www.fukuoka-marathon.com/index.html>

## 第4回さいたま国際マラソン 兼 ドーハ2019世界陸上競技選手権大会 日本代表選手選考競技会 マラソングランドチャンピオンシップシリーズ 2018-2019 ～東京2020オリンピック日本代表選手選考競技会～

今年で第4回目となるさいたま国際マラソンは、  
IAAFシルバーラベルの大会であり、国内外の有力選手  
が集まります。

埼玉を舞台に繰り上げられる熱戦にご期待下さい。

▼日時：12月9日（日）9時10分スタート

▼会場（スタート・フィニッシュ）：

さいたまスーパーアリーナ

▼アクセス：JR京浜東北線・宇都宮線・高崎線「さい  
たま新都心」駅下車、徒歩すぐ



昨年度の大会の様子



昨年度の大会の様子



- ▼コース：さいたまスーパーアリーナ発着、IAAF・日本陸連公認コース
- ▼問合せ先：さいたま国際マラソン大会事務局  
048-832-2561（平日／10：00～18：00）
- ▼日本陸連WEB内大会ページ  
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1335/>  
大会公式サイト  
<https://saitama-international-marathon.jp/>

## “日清食品カップ” 第21回全国小学生 クロスカントリーリレー研修大会

全国から小学生の精鋭たちが大阪に集結！一生懸命走る金の卵たちに、大きなご声援をお願いします！

- ▼日時：12月9日（日）
- ▼会場：大阪・万博記念公園東の広場特設コース
- ▼アクセス：
  - ・阪急線：南茨木駅、山田駅、蛍池駅
  - ・地下鉄御堂筋線（北大阪急行線）：千里中央駅
  - ・地下鉄谷町線：大日駅
  - ・京阪本線：門真市駅
 上記駅のそれぞれから大阪モノレール「万博記念公園駅」もしくは「公園東口駅」
- ▼種目：
  - ・11：05 友好タイムトライアルレース（女子）
  - ・11：15 友好タイムトライアルレース（男子）
 チーム対抗リレーに参加できなかった50チームの男女各1名が出場。
  - ・11：25 チーム対抗クロスカントリーリレー
 全国から50チームが参加し、6区間（1区間1.5km）の総合タイムで順位を決定。  
1・3・5区が女子選手、2・4・6区が男子選手。



昨年度の大会の様子

- ▼出場チーム：各加盟団体より推薦を受けた全国47都道府県より各1チームずつ、開催地（大阪）より3チームの合計50チームが出場。
- ▼問合せ：
  - 日本陸上競技連盟事務局 担当：八幡・山口
  - TEL 03-5321-6580 / FAX 03-5321-6591
- ▼日本陸連WEB内大会ページ：
  - <https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1293/>

## 平成30年度全国中学校体育大会 第26回全国中学校駅伝大会

- ▼日時：12月16日（日）
  - 女子11時00分スタート
  - 男子12時15分スタート
- ▼会場：
  - 滋賀県希望が丘文化公園スポーツゾーン芝生ランド
- ▼アクセス：
  - ・JR琵琶湖線野洲駅より 近江鉄道バス・希望が丘西ゲート経由「花緑公園行」または「村田製作所行」で約10分
- ▼種目：
  - ・男子の部（6区間18km、各区間3km）
  - ・女子の部（5区間12km、1・5区3km、2・3・4区2km）
- ▼問い合わせ先：
  - 全中駅伝事務局（天津市立粟津中学校内）
  - TEL 077-535-9080 / FAX 077-535-9081
- ▼日本陸連WEB内大会ページ
  - <https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1294/>
 大会公式サイト：
  - <http://www.zenkokuekiden-shiga.jp/event.html>



昨年度の大会の様子

**JAAF**  
SAGA

一般財団法人佐賀陸上競技協会

〒840-0852 佐賀市中折町10-18 高橋正秀様方  
TEL.0952-23-8961 FAX.0952-23-8961  
http://www.sagarikujyo.jp/

佐賀県は2023年には2回目の国体を迎えます。2023年より国民スポーツ大会と名称が変わる最初の大会となります。その準備として佐賀陸上競技協会は施設整備改修や競技力向上に取り組んでいますが、思うような成果となっていない、施設改修は遅れ2017年3月で3種補助競技場と雨天練習場の不備になり現在メインは2種競技場となり、まずは3種補助公認競技場が昨年6月に完成しメイン競技場は施設用器具委員会の図面指導を頂いています。佐賀県は2020年東京オリンピックの合宿誘致のため、9レーンでクラス2仕様の競技場を2018年12月より改修工事に入ります。佐賀の競技場はバックスタンドが狭く施設の配置と導線の確保で佐賀県との調整が難航している中ではあるが選手・観客に安全と競技運営がスムーズにできる競技場になるよう、施設用器具委員会の助言と指導を受け皆さんに喜んでもらえる競技場が完成することを願っています。2023年より大会名称が変わり、国民スポーツ大会となるため、第1回にふさわしい大会となるような施設を佐賀県と協議し、より良い陸上競技場になるよう要望していきたいと思っています。

(文責：水田和幸)

**JAAF**  
KUMAMOTO

一般財団法人熊本陸上競技協会

〒861-8046 熊本市東区石原2-9-1 熊本県民総合運動公園内  
TEL.096-388-1688 FAX.096-388-1688  
http://www.kumariku.org/

“マラソンの父”として知られる日本人初のオリンピック選手・金栗四三を描くNHK大河ドラマ「いだてん～東京オリムピック噺(ばなし)」の放送が近づくにつれ、出身地・熊本では大きな盛り上がりを見せています。ラジオ局のエフエム熊本は、元熊本陸協会長の長谷川孝道氏が新聞記者時代に直接取材して書いた唯一の伝記「走れ25キロ」の内容を紹介する朗読番組を放送し、熊本日日新聞でも漫画を連載中。9月には瀬古利彦さんが和木町を訪れ「(オリンピック中止や不参加などで)力を出せなかった金栗先生と自分は似ている」と講演しました。玉名市では、新しいマラソン大会の企画も進行中です。

ジャカルタ・アジア大会のマラソンに熊本国府高出身の園田隼選手(黒崎播磨)が出場し、4位入賞を果たしました。東京五輪出場に意欲を燃やしています。

インターハイは女子5000m競歩の村上藍選手(尚綱高)が23分24秒86で栄冠を勝ち取り、福井国体男子少年B3000mでは鶴川正也選手(九州学院高)が8分23秒93で優勝しました。

43回目を迎える甲佐10マイル公認ロードレースは12月2日に開催されます。14回大会で優勝した森下広一選手はバルセロナ五輪マラソンで銀メダリストとなり、マーティン・マサシ選手の44分41秒(29回大会)は実質上の世界最高記録です。去年は設楽悠太選手(ホンダ)が日本歴代4位の45分58秒で国際競技者も含めてトップでゴールインしましたが、さて今年は誰が?

(文責：企画広報部長 永廣憲一)

**JAAF**  
NAGASAKI

一般財団法人長崎陸上競技協会

〒854-0061 諫早市宇都町27-1  
一般社団法人 長崎県公園緑地協会管理事務所分室内  
TEL.0957-21-1921 FAX.0957-47-5411  
http://jaaf-nagasaki.net

## 2018 アジア大会陸上競技 金・銀・銅メダル獲得

2018年8月25日(土)6:00競技開始の男子マラソンで、本県のMHPS所属井上大仁(いのうえひろと)選手が陸上競技最初の金メダルを獲得し、長崎県では大いに盛り上がりました。レースはトラックでの激闘の末の決着に感動しました。続いて翌26日(日)の女子マラソンで十八銀行所属の野上恵子(のがみけいこ)選手が銀メダル獲得のニュースに、更に県民の興奮は高まりました。

また、このレースでは前日のレースを終わったばかりの井上大仁選手が、終盤の給水所で野上選手にボトルを手渡し、激励の言葉をかけ、この言葉を励みにしたとの後日談を聞き、同郷で練習に励む選手同士の絆を感じ、またまた感動です。そして、29日(水)には七種競技で山崎有紀(やまさきゆき)選手(長崎南高～九州共立大～ズギ浜松AC)が、2日間の激闘の末、銅メダルを獲得しびっくりの連続です。長崎県から初めて3名も日本代表として選出されたことも初ですが、その3名がメダルを獲得したことは本県陸上界初の快挙です。

急速、祝賀会の日程調整に取り掛かり9月15日(土)に井上・野上両選手の日程があったので、メダル獲得祝賀会を開催しました。(山崎選手は海外遠征の最中で欠席でした。)

二人は2020年開催の東京オリンピックの代表権獲得へ向け、さらなる努力と精進の意思を述べてくれました。

山崎選手を含め3名には長崎陸上競技協会をはじめ長崎県民が応援しています。

**JAAF**  
OITA

一般財団法人大分陸上競技協会

〒870-0931 大分市西浜1-1 大分市宮陸上競技場3階  
TEL.097-552-7808 FAX.097-552-7806  
http://www.d-b.ne.jp/oita-rik/

「一人でも多くの競技者に、少しでも長く陸上競技を続けてもらいたい」日本陸連の2020東京オリンピックパンフレットの表紙に記されたメッセージがありますが、本陸協強化部がこのメッセージを意識した活動を一部紹介します。

本陸協強化部は、国際的競技者の発掘、全国的指導者・競技者の育成、指導者の中長期的視野に立った指導の理解を深めることを目標に、強化委員会が組織されています。Jrオリンピック、国体、男女全国都道府県駅伝、小陸連の4つのカテゴリーに分かれ、それぞれの監督、指導者がチームで活動しています。

その指導者たちが連携し、一貫した育成強化の意識を醸成するために、毎年11月に全カテゴリーの指導者と小学生から社会人の競技者が集まり練習会と会議を開催しています。小学生が次のステージの選手の姿を見ることで陸上競技を継続し成長すること、練習会後の会議では、各カテゴリーの指導者が、共通認識の元でコーチングを展開できるよう意見交換を行い、課題を共有し、改善に向け知恵を出し合うことが目的です。

昨年のこの会議での成果は、カテゴリー毎に全国大会出場選手の選考基準を明確にしてHPにアップできたことと、中3から高1へのつなぐ指導が中高の指導者間で上手くいったことです。

日本陸連から送られてくる研究紀要や情報ととらえ、本県強化の方向性を正しながら、競技者が最高の時に最高のパフォーマンスを発揮できるよう指導者たちと協力していきたいと思っています。

(文責：強化部長 羽田野明美)





事務局からのお知らせ

◆◆2019年5月！IAAF世界リレー 2019横浜大会開催決定！！◆◆

国際陸上競技連盟 (IAAF) が主催する「IAAF 世界リレー (IAAF World Relays)」の第4回大会が、日本で開催されることが決定しました。会期は、2019年5月11日 (土) ～ 12日 (日) の2日間。神奈川県横浜市の横浜国際総合競技場 (日産スタジアム) において行われます。10月12日に行われた記者会見で、この「IAAF 世界リレー 2019 横浜大会」の日本開催が、正式に発表されました。



◆◆日本選手権リレー&北九州陸上カーニバル・ジュニアオリンピックの動画を公開中！◆◆

10月12日 (金) から10月14日 (日) まで、神奈川・日産スタジアムで開催された第49回ジュニアオリンピック陸上競技大会、10月27日 (土) と28日 (日) の2日間で開催された第103回日本陸上競技選手権リレー競技大会& GP シリーズ最終戦！第40回北九州陸上カーニバルの動画を公開中です。激戦の模様をもう一度、お楽しみ下さい。

▼アクセスはこちらから！

日本選手権リレー&北九州陸上カーニバル  
(<http://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1336/>)

ジュニアオリンピック公式サイト  
(<http://www.jaaf.or.jp/jro/49/>)



陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩 (陸連会長)  
友永 義治 (陸連副会長)  
八木 雅夫 (陸連副会長)  
尾縣 貢 (陸連専務理事)  
麻場 一徳 (陸連強化委員長)  
風間 明 (陸連事務局長)  
高橋 克実 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘  
◇時報編集担当  
繁田 進  
石塚 浩  
青木 和浩  
宮田 宏  
廣瀬 静香

陸連時報編集室

〒163-0717  
東京都新宿区西新宿2-7-1  
小田急第一生命ビル17階  
公益財団法人日本陸上競技連盟 内  
TEL 03-5321-6580  
FAX 03-5321-6591  
WEBサイト <http://www.jaaf.or.jp/>  
公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>